

この度の授業見学は、私が担当する精神保健福祉士養成演習Ⅱの授業において行われました。学んだことや気づいたことについて、以下にまとめます。

第一に、養成演習では、総長先生の普段の教えに基づき、どうやったら学生が試験に合格するかを真剣に考える、その目的に直結する授業を行う、学問的知識をダラダラと述べない、余計なことは話さない等を徹底することが重要であると改めて感じました。今回の授業で扱った問題は、精神医療審査会の役割や、医療保護入院者への退院支援などについてでしたが、テキストの解説文に書かれていることは、やや冗長である場合があります。その解説文のポイントをいかに正答に直結するようポイントを絞って学生に提示できるかを教員は考えなければなりません。教員は学生が主体的に学べるようにするサポーター役、司会者役であり、実際に暗記をするのは学生です。そこで、いかに重要ポイントを絞って学生に暗記してもらうか、または、正解に直結する道筋を教員側がどう示すか、という点は徹底しなければならないと改めて感じました。こうした点は普段からの総長先生の教えによる気づきです。

また、以前の自身の授業では、テキストの線を引いたポイントを暗記してもらう際に、「あと残り〇分です」という声かけをしていない場合があります。その点についてはかなり改善がなされてきたと考えます。

第二に、学生に対する声かけについてです。授業は学生が主役であり、ポイントを覚えるのは学生自身です。そこで、各選択肢ごとに「この内容について分かりましたか」という声かけはそれを確認するために大切であると思います。一方で、それに加えて「どこが重要であるか挙げてもらえますか」「この解説(選択肢)の覚えるべき用語は何ですか」など、学生に発言を促す声かけがもう少しあってよかったのではないかとも考えました。これは私自身の課題として、今後の授業に活かしていきたいと考えております。

今回の研修会では、私が担当する精神保健福祉士養成演習Ⅱの授業について、様々な気づきが得られました。今後も一層研鑽に励んでいきます。